



umango

処理のソース手順書

処理のソース

処理のソースは、Umango システムによって処理されるドキュメントのエンタリーポイントです。Umango はソースからドキュメントを取得し、処理を開始します。Umango で設定できるドキュメント ソースは 4 種類あります。詳細については、各ソースの説明書を参照してください。

- 1. デバイス (ブラウザ、複合機、TWAIN スキャナー):** Umango で設定できるデバイスは 3 種類あります。設定後は 3 つのデバイスすべてと一緒に使用できます。3 つのデバイスは、複合機、ブラウザー (IP アドレスまたは DNS を使用してどのデバイスからでもアクセスできます)、TWAIN スキャナーです。
- 2. 電子メール (POP3、IMAP、Office 365 電子メール アカウント):** 電子メール アカウントを処理のソースとして設定すると、Umango は電子メールの受信トレイを監視し、必要な電子メールの添付ファイルおよび/または電子メールの本文を処理します。
- 3. ネットワークフォルダ:** ネットワークフォルダを処理ソースとして設定すると、Umango はフォルダーを監視し、フォルダー内のすべての新しいドキュメントを処理します。このフォルダーを、Umango でサポートされていない MFP のスキャン先として使用したり、このフォルダにドキュメントをコピーして貼り付けるだけで、Umango が自動的に処理したりできます。ネットワークの共有フォルダを選択することをお勧めします。
- 4. インポートコネクタ (クラウドストレージ):** クラウドストレージをインポートコネクタとして使用すると、「ネットワークフォルダ」をインポートコネクタとして使用する場合と同じように動作します。設定されたクラウドストレージに新しいファイルが受信されると、Umango によってフォルダー内のすべての新しいドキュメントを処理します。このフォルダーを、Umango でサポートされていない 複合機のスキャン先として使用したり、このストレージにドキュメントをコピーして貼り付けるだけで、Umango が自動的に処理したりできます。

処理のソースの構成は、処理の作成時またはインポート時に行うことができます。構成は後で変更できます。詳細については、各ソースの説明書を参照してください。